

進化する研究環境をささえる研究基盤

自己紹介

- 研究環境のDX@NIMS
 - 電子ラボノート、IoTデータ蓄積
 - 計測装置の高度化
 - ネットワークSINET6移行
 - パブリッククラウドサービス
 - ストレージ …データ管理
- 2015-2016 NIMSデータ事業の移行
- 2017 NIMSのデータプラットフォーム構築事業
 - 2018 研究データ「つくる」「あつめる」「つかう」
 - 2019 所内向け、オンプレ、計算資源
 - 2020 材料データベース、解析、評価、予測
 - 2021 所内向け → クラウド移行+AI資源 →ARIM
- **2022 NIIの研究データ基盤 Research Data Cloud**
 - 2023 国内外の基盤連携FAIR
- 2024 OA加速化事業、公的資金研究の成果公開の準備
- 2025～ OA加速しOS推進、知識基盤に向かう研究基盤とは？

パネルディスカッション「研究データの公開がもたらす社会への貢献」

進化する研究環境をささえる研究基盤

日本の状況

- 研究環境のDX
 - デジタル化
 - ネットワークの高速化
 - 計測装置の高度化
 - クラウドサービス
 - ストレージ …

世界の動向

- 研究環境のグローバル化
 - デジタル化→FAIR原則
 - 国家間、プロジェクト間のデータ流通
 - 国のデータポリシー
 - 欧州データ市場 …



- 公開・共有前の秘匿性と信頼性の担保**
 - 秘匿性の高い研究データの管理・保存・利活用に求められる要件
 - 研究データの信頼性担保の方法やノウハウなど
- 社会貢献に向けた**オープン&クローズ戦略**
 - 先行者利益の担保と公開メリット
 - オープン戦略による分野振興活動の先行
- GakuNin RDM・mdx・認証など国のインフラへの要望・期待**
 - 必要な機能、仕組み、利活用支援など
 - 研究分野、大学・研究機関、汎用(GAFAMなど)、自治体などのインフラの使い分け
- 分野融合・活用開拓**による新たな社会貢献に向けて
 - 学際的な出会いの場を創出
 - 研究データを公開する前の出会い